

令和4年度

公立大学法人福島県立医科大学の業務の実績に関する評価結果

令和5年8月

福島県公立大学法人評価委員会

公立大学法人福島県立医科大学の令和4年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

第1 「全体評価」

公立大学法人福島県立医科大学（以下「法人」という。）においては、平成18年度の法人化以降、法人化のメリットを生かした以下の特色ある運営がなされている。

- ・理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定に基づく、組織、人事、予算などの面での自由度をいかした自主的・自律的な運営
- ・学外者や専門家の幅広い見地と地域社会のニーズ等を踏まえた運営

第三期中期目標期間の五年度目となる令和4年度の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（224項目）中

「A：年度計画を上回って実施している」	30項目（13.4%）
「B：年度計画を予定どおりに実施している」	188項目（83.9%）
「C：年度計画を下回って実施している」	4項目（1.8%）
「D：年度計画を大幅に下回って実施している」	2項目（0.9%）

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故、更には新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続く中で、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の法人内組織や教職員が相互に緊密な連携を図りながら、法人を挙げて中期目標の達成に向けて、人材育成や研究、保健・医療の提供、地域貢献に積極的に取り組み、県民の保健・医療・福祉の向上に貢献していることは、高く評価できる。

また、東日本大震災等からの復興を進めるため、県民健康調査を始めとする県民の心と体の健康を守るための各種事業、放射線に関するデータや知見の国内外への発信に積極的に取り組んだことや新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福島県の中核医療機関として尽力されていることは、法人の社会的評価を大いに高めている。

財務状況に関しては、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながらも、効率的な病床運用を行うなど更なる経営改善に取り組み、4期連続で当期総利益を計上した。

こうした取組について評価するとともに、引き続き、安定的な運営の確保、経営効率化に取り組まれるよう更に期待する。

1 福島県立医科大学

福島県立医科大学は、令和3年4月の保健科学部開設により、3学部6学科を有する医療系総合大学として、豊かな人間性や倫理観、コミュニケーション能力を備えた地域医療に貢献する医療人の育成、学生への各種支援、県内医療確保のための医療機関への医師派遣や専門知識を活用した医療教育活動等の地域医療施策、海外大学との相互交流や海外研究支援による国際交流の深化、独創的で質の高い研究を推進するための環境整備に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

2 大学附属病院

特定機能病院である大学附属病院（以下「附属病院」という。）では、全人的・統合的な医療の提供などのため、法人化を機に医学部附属病院から大学附属病院

となり、既に病院機能評価の認定や都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、救命救急センター及びドクターヘリの運営、臨床腫瘍センターの運営、性差医療センターの運営、リハビリテーションセンターの運営、一般病棟における7対1看護の実施、臨床研修の充実、医療の高度化や質の高い医療の提供を支える人材育成、双葉地域の医療体制への支援など、高度・先進医療、患者の安全管理と患者サービスの向上、地域医療との連携等に取り組むとともに、病院長を中心としたガバナンス体制の下で医療安全の確保に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

また、新病棟（みらい棟）において、救急医療、災害・被ばく医療、子ども・女性の医療の充実を図るとともに、東北地方では初の導入となった先端的なハイブリッド手術室やMRI手術室において最新医療を提供し、本県の医療水準の向上に努めていることも評価できる。

病院長を中心に、引き続き、医業収益の確保に努めていることも評価できる。

3 会津医療センター

大学の附属施設として教育研究の一端を担うため、大学と連携した医学部及び看護学部の学生の臨床実習を行うなど、人間性豊かな優れた医療人の育成に努めたことについて評価できる。また、高度で先進的な医療を推進し、地域医療拠点として会津地域の医療向上に資するため、病院機能評価の認定、病院機能の充実、地域の医療機関との連携強化、地域医療支援などの取組を行っていることについても評価できる。

病院長を中心に、引き続き、医業収益の確保に努めていることも評価できる。

4 東日本大震災等の復興支援

本県復興を担う高度な知識や技術等を備えた医療人を育成するための教育プログラムの実施、県民健康調査や市町村等との連携による被災者の心のケアの推進、医療関連産業の復興関連プロジェクト支援に向けた研究の推進、放射線医学の教育研究の推進などについて評価できる。また、本県医療分野における復興拠点となる「ふくしま国際医療科学センター」において、復興を医療面と健康面から支える取組を進めていることも評価できる。

令和4年度の業務実績（項目別評価）は以下のとおりである。

	十分に実施	おおむね実施	下回って実施	大幅に下回る
教育研究等の質の向上		○		
教育		○		
研究		○		
地域貢献	○			
国際交流		○		
大学附属病院		○		
東日本大震災等の復興支援		○		
県民健康の保持・増進		○		
復興支援	○			
放射線医学の教育研究		○		
関係機関との連携・協力		○		
管理運営の改善及び効率化		○		
業務運営の改善、効率化		○		
財務内容の改善		○		
自己点検・評価等		○		
その他業務運営		○		

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 国家試験の合格率について、医師国家試験及び保健師国家試験において、目標値を上回る結果であった。特に、医師国家試験の合格率は100%であり、大いに評価できる。看護師国家試験においては、目標値には及ばなかったが全国平均値を上回った。
 医師国家試験(新卒) 実績 100% (目標値 95%以上 全国平均 94.9%)
 保健師国家試験 実績 97.6% (目標値 95%以上 全国平均 96.8%)
 看護師国家試験 実績 97.6% (目標値 100% 全国平均 95.5%)
- ② ○ アドミッション・ポリシーをホームページや大学案内に掲載したほか、オープンキャンパスや進学説明会を開催するなど、大学が求める学生像の周知を図り、目的意識を持った学生の確保に取り組んだ。
- ③ ○ 新学習指導要領に基づく令和7年度入試に対応した、新教科「情報」の取扱いについて、入試委員会等で検討し共通テストの利用教科とすることを令和5年1月に公表した。

- ④ ○ 医学部において、令和4年度入学者選抜から開始した総合型選抜でのMMI（複数の課題を用いた面接試験）で、志願者自らが作成する自己推薦書、活動報告書や面接の評価基準を見直し、学力及び人格的に優秀である学生の選考に取り組んだ。
- ⑤ ◎ 医学部において、C B T（臨床実習開始前の学生に必要とされる知識を問う客観試験）については、合格基準の引き上げや模試結果を教員間で共有するなど対策強化を図った結果、合格率は100%（目標値（R4年度から変更）：99.0%以上）で目標を達成した。O S C E（臨床実習開始前後の学生に必要とされる技能と態度を客観的に評価する実技試験）についても、スキル・ラボラトリー（診療技能を修得するための施設）を開放し、学生の自己学習促進への取組などを行った結果、合格率は100%（目標値（R4年度から変更）：98.0%以上）で、目標を上回った。
- ※C B T、O S C E合格率：令和4年度から最終合格率とする。
- ⑥ ○ 各種奨学金や高等教育の修学支援制度の授業料等減免など、経済的支援に関する情報を随時周知し、学生への支援体制の充実を図った。
- ⑦ ○ 看護学部就職希望者の就職率（目標値：100%）について、就職情報コーナーで、学生に対し、各医療機関からの求人情報等の随時提供や附属病院情報の重点的な周知などを行ったことにより、就職希望者の就職率は、100%を維持している。
- ⑧ ○ 保健科学部において、包括連携協定に基づき飯舘村の高齢施設で臨床実習を行うなど、地域医療を支える医療人材の育成とともに住民との交流にも取り組んでいる。
- ⑨ ○ 大学院看護学研究科助産師コース及び別科助産学専攻の令和5年4月開設に向け、学生募集要項の公表や文部科学省から学則変更の承認を受けるなど、着実に準備を進めた。
- ⑩ ○ 会津医療センターにおいて、教授や担当医師と学生が意見交換しやすい環境づくりに努め、学生の臨床実習や臨地実習の充実を図った。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 学内研究者に対して競争的資金の公募情報を速やかに周知し、事務局での申請書事前チェックや効果的な資料作成支援などを行った結果、助成事業の採択件数は概ね目標を達成した。

AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)事業については、医薬品や再生・細胞医療・遺伝子治療等の分野を中心とする研究開発に限られることもあり、採択件数は目標を下回った。

文部科学省科学研究費助成事業 件数 379 件
 (目標値(R4年度から変更):年間 380 件以上)

厚生労働省科学研究費補助金 件数 24 件
 (目標値:年間 20 件以上)

AMED事業 件数 29 件

(目標値:年間 50 件以上)

- ② △ 研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員の雇用や民間会社への英文校正委託件数を増加させるなど、質の高い英語論文の作成支援環境の充実に取り組んだが、英語論文数は821編(目標値(R4年度から変更):年間1,000編以上)と目標を下回った。
- ③ ○ 臨床研究センターにおいて、臨床研究の計画段階から実施までを支援した特定臨床研究が、厚生労働省から認定を受けた認定臨床研究審査委員会で承認され研究を開始した。また、質の高い臨床研究等の実施支援のためコーディネーター(看護師)を新たに採用するなど、実施体制の強化を図った。
- ④ ○ バイオジャパン2022やメディカルクリエーションふくしま2022など県内外で企業向けプレゼンテーション等を行い、共同研究実施に向け、産業界へ積極的に働きかけを行った。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【評価】「I: 年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 地元新聞社と連携し、県民向けの公開講座「減塩サミット」等の紙面開催やYou Tubeライブ配信を実施した他、対面での健康講座やSDGsセミナーを開催し、地域住民の保健・医療に関する知識の向上に貢献した。
- ② ○ 県との連携事業により、県内の高校・大学を対象に大腸がんや乳がんなど、がんをテーマとした出前講座を対面で開講した他、オンデマンド配信による受講者の増に取り組むなど、保健・医療教育活動に貢献した。
- ③ ◎ 「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)への継続的参加を推進するため、高校生の協力による「科学実験」動画の制作・配信やアクアマリンふくしまによるオンラインでの「環境セミナー」の開催など、様々なコミュニケーション活動を計画的に実施し、円滑な調査、回収率の維持向上に努めた。
- ④ ◎ 会津医療センターにおいて、産学官連携による共同研究促進のための奨学寄付金など、外部からの資金の新規受付件数は54件で、昨年度より6件の増となった。
- ⑤ ◎ 医療機関からの医師派遣依頼について、非常勤医師派遣対応率は87.0%(目標値:84.0%以上)、対応件数は1,379件(目標値:1,000件以上)となり、目標達成を維持している。
- ⑥ ○ 地域の関係医療機関等との連携により、指導医セミナーを9院で開催した他、地域医療を学ぶセミナーを開催するなど、医療従事者の県内定着促進と知識・技術の向上に取り組んだ。
- ⑦ ○ 看護師特定行為研修において、普及啓発講習会を年2回開催し、特定の看護分野に秀でた専門性の高い人材育成に取り組んだ。また、県内の指定研修機関と協力し、独自で特定行為研修指導者講習会を開催するなど、指導者の養成を推進した。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国規制のため、令和4年度も協定校への学生派遣は中止となったが、会津大学との連携による「国際学生カンファランス」をオンラインで開催し、英語での研究成果発表や海外の学生との交流などを通し、国際社会で活躍できる人づくりに取り組んだ。

また、オハイオ州立大学放射線腫瘍学講座との学術交流協定を更新した他、国立台湾大学医学院と新たに学術交流協定を締結するなど、今後の共同研究や学生の交流促進が期待される。

(5) 大学附属病院に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 特定の看護分野において優れた知識と技術を持つ、専門看護師及び認定看護師の資格取得3名（目標値：中期目標期間終了時まで12名以上）、特定看護師育成7名（目標値：年2名以上）など、専門領域を考慮した水準の高い人材育成への取組が着実に成果に繋がっている。
- ② ◎ 放射線関係の全国規模の各種学会へ職員を派遣し、研究成果の発表や新しい知識・技術の習得に努めるなど、メディカルスタッフ資質向上のため、教育・研修を充実させた。また、第一種放射線取扱主任者免許を1名が取得した他、3名が放射線治療専門放射線技師の認定を受けるなど、放射線治療に高い専門性を持つ有資格者の計画的な育成に取り組んだ。
- ③ ○ 先進医療の認可に向けた研究への支援案件を募集したが応募がなく、目標（目標値：年1件以上）を達成できなかった。一方、新たに医薬品としての承認を目指し実施される治験においては、企業治験が過去最多水準の101件、医師主導治験は新たに3件開始され、先進医療の促進を図った。
- ④ ○ 事前診察予約の迅速処理や受付時間の延長、連携登録医制度導入による紹介や他医療機関への逆紹介の推進、多職種共同による転院支援等の取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、紹介率は75.0%（目標値：90%以上）、逆紹介率は64.8%（目標値：80%以上）となり、目標値を下回った。PCR検査のみの初診患者を除いた場合の紹介率は95.7%、逆紹介率は82.7%で目標を達成した。
- ⑤ ○ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病床稼働率は77.1%（目標値：中期目標期間終了時まで87%以上）、一般病棟の平均在院日数は13.4日（目標値：中期目標期間終了時まで13日以下）で、目標には届かなかった。診療科部長へ毎週の結果発信や部長会での目標達成に向けた取組を周知するなど、引き続き、適正な病床利用率及び平

均在院日数の確保に向けた取組に期待する。

- ⑥ ○ 医業未収金について、マニュアルに基づき新規未収金の発生防止に努めるとともに、支払いが困難な患者に対し公的支援制度の情報を提供するなどの取組を行った結果、入金率（前年度比 3.7%増）及び過年度分回収率（前年度比 14.2%増）ともに前年度を上回った。
- ⑦ ○ 医薬品の購入経費抑制に当たり、薬事委員会を開催（年4回）し、後発医薬品への切り替えを行った他、ベンチマークデータを活用しながら業者との価格交渉に取り組んだ結果、購入費の大幅な縮減が図られた。
- ⑧ ○ 会津医療センターにおいて、関係医療機関等と協力・連携し、合同説明会への参加やセンター独自の説明会の開催などを積極的に行い、研修環境の周知に努めた結果、初期研修医のマッチング率は100%となり、鍼灸研修生は計画どおり採用されたが、内科の専門医を養成する研修プログラムについては、応募がなかった。引き続き、センターの独自性を発揮し、地域医療を担う人材の育成への取組に期待する。
- ⑨ ◎ 会津医療センターにおいて、事務局と各診療科の連携による積極的な患者受け入れを行った結果、手術技術の難しさや所要時間などから区分される、手術難易度AからEのうち、手術難易度が高いD以上の割合は76.2%となり、高度で先進的な医療の提供を推進した。
- ⑩ △ 会津医療センターにおいて、院長を始め患者支援センターを中心に、会津管内の病院や診療所等へ訪問し、連携の強化活動や会津医療センターを紹介先としてPRしたが、紹介率は66.5%（目標値:70%以上）で目標を達成しなかった。また、逆紹介先が決まらない患者へ積極的な提案を行ったが、逆紹介率は47.3%となり目標（目標値:50.0%以上）を達成できなかった。発熱外来を除いた場合の紹介率は77.9%、逆紹介率58.1%で目標を達成した。
- ⑪ ○ 会津医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病床利用率は73.2%で、目標（目標値:85%以上）に届かなかったが、一般病床の平均在院日数は11.3日となり、目標（目標値:13日以下）達成を維持している。
- ⑫ △ 会津医療センターにおいて、全職員を対象にレセプト査定状況等の研修会を開催し、保健診療に関する情報提供を行ったが、査定率は0.45%と前年度（同期0.37%）を上回る結果となった。

2 東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 情報管理等の専門家から助言を受け、県民健康調査データ管理システムの円滑な運用を図っているほか、調査データを学術研究などに有

効活用し、県民健康調査を推進した。

- ② ○ 県民健康調査推進のため、次の取組を実施した。
- ・基本調査の回答率向上に向け、甲状腺検査会場において問診票の書き方支援を行った。
 - ・健康診査について市町村等と調整し、帰還状況等から新たに大熊町内に診査会場を設ける見直しを行った。
 - ・甲状腺検査受診機会の確保に向け、県内外の検査実施機関の拡充を図ったほか、休日検査を8日、夜間検査を5日実施するなど、受診者の利便性に配慮した取組を行った。
 - ・こころの健康度・生活習慣に関する調査について、回答内容から支援が必要な方へ電話支援又は文書支援を実施するとともに、電話相談を実施するなど、こころのケアにつながる取組を推進した。
- ③ △ 先端臨床研究センターにおいて実施している PET 検査について、学内診療科や学外医療機関からの依頼を円滑に実施できるよう調整し稼働向上に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどから、稼働件数は前年度実績を155件下回った。各疾病の早期診断につなげるため、引き続き、稼働率向上の取組に期待する。

(2) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 福島医薬品関連産業支援拠点化事業において、創業に有効な開発技術を用いて取得した、新型コロナウイルスに対する抗体が試薬として製品化された他、点鼻薬等の開発を進めているなど、引き続き、医療関連産業の創出・振興に向けて取り組んでいる。
- 大学設備等貸与などの支援を行った結果、第4号となるTRセンター発ベンチャー企業が設立され、雇用創出に寄与した。
- ・雇用者総数（目標値：中期目標期間中に54名以上※中期目標の一部改正による新数値目標）
実績 70名
 - ・衛生材料等の製品化件数（目標値：中期目標期間中に3例以上※中期計画変更による新数値目標）
実績 3例
 - ・浜通りバイオ産業推進フォーラムの開催回数（目標値：各年度1回以上※中期計画変更による新数値目標）
実績 1回
- ② ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により医師派遣の調整が難しい中、ふたば医療センター附属病院へ医師を計画どおり派遣し、地域に必要な医療の提供に取り組んだ。また、生活習慣病の予防についての広報誌発行や住民向け健康講座の開催支援等、地域住民の疾病予防や健康増進など、双葉地域の復興に医療面から貢献した。

(3) 放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- 先端臨床研究センターにおいて進めているアスタチンを用いたがん治療候補薬（MABG）の研究開発について、臨床試験（医師主導試験）を開始した他、ガリウムを用いたがん診断薬についても、臨床試験に向けた準備を進めるなど、放射線医学の発展に寄与している。

(4) 関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- 先端臨床研究センターにおいて、IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等、国内外の研究機関と連携関係を継続している他、「放射性治療薬開発に関する国際シンポジウム」を南相馬市で開催するなど、研究者等との更なる連携・協力関係の構築に努めた。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 男女共同参画やワークライフバランスに関するセミナー等を開催した他、出産や育児、介護等のライフイベントを抱えた研究者への支援員の配置や産休等を取得する女性医師の代替確保など、女性が働きやすい環境を整備し、ワークライフバランス推進の取組を進めた。
- ② ○ 災害に備え、帰宅困難な学生用の食料備蓄や防災訓練、職員の役割確認を行うなど、学生の安全を確保する防災意識の向上を図った。
- ③ ○ 副病院長、各診療科副部長等をメンバーとした「勤務環境の改善検討ワーキンググループ」を10回開催した他、タスク・シフト/シェア（医師業務の一部移管/業務の共同化）を含む「医師の働き方改革」に関する協議検討を進め、医師の長時間労働への対策に取り組んだ。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- 全職員の意識啓発を図るため、広報誌の発行や省エネルギーキャンペーンなどを行い、光熱水費の見直しや効率的・効果的な執行に努めた。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ◎ 県内の高校生を対象に、広報誌「いごころ」の定期的（年4回）な発行や出前講座などを実施し、将来、医療従事者として県内で活躍できる人材の育成に寄与する取組を行った。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 「倫理講習会」を集合研修形式と e-learning 形式を合わせたハイブリッド方式で実施し、受講生の利便性を図った。また、研究倫理教育の一つとして、e-learning での研究倫理教材の履修を教職員に勧めるなど、各種研修の充実を図った。
- ② ○ 学生へのアンケート結果に基づき、福島駅前キャンパスに自動販売機の増設や学生用掲示板を設置するなど、ニーズに応えた環境の改善に取り組んだ。
- ③ ○ 定期健康診断の未受診者に対して、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とするなど、積極的な受診勧奨を行い、受診率 100%を達成した。

項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	25	B	130	C	2	D	2	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画通り実施し、ほぼ期待どおり成果を挙げた。									
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	4	B	54	C	0	D	1	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画通り実施し、ほぼ期待どおり成果を挙げた。									
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや進学説明会を開催し、目的意識を持った学生の確保に取り組んだことは評価できる。 ・各学部の入試区分ごとに、入学後の学生の成績や卒業後の進路等について分析・検証を行い、入学者選抜の改善に繋げていることは評価できる。
		アドミッション・ポリシーをホームページ、大学案内に掲載するとともに、進学説明会や大学見学、オープンキャンパス等で本学が求める学生像の周知を図った。 各学部において、入試区分ごとの入学者についての入学後の成績や卒業後の進路等についての分析・検証を行い、入学者選抜の改善の検討を進めている。									

	(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	A	4	B	31	C	0	D	1	II	<ul style="list-style-type: none"> ・(医学部)医師国家試験(新卒者)において、合格率100%を達成したことは大いに評価できる。 ・(看護学部)新カリキュラムにより、看護学部の教育理念に定める能力を持った看護専門職の育成を行ったことは評価できる。 ・(保健科学部)前期科目の本試験結果をGPA方式で評価し、12月に中間発表を行うなど、成績評価法の透明性、公平性の確保を図ったことは評価できる。
		<p>医学教育分野別評価の結果を受け、カリキュラム委員会、教務委員会、教育評価委員会の3組織により、医学 医学教育分野別評価対策プロジェクトチームを設置し、指摘事項に対する改善状況と今後の計画について検討するとともに、教務委員会及びカリキュラム委員会においてカリキュラムの検証及び改善に取り組んでいる。(医学部)</p> <p>カリキュラム改正により、看護学部の教育理念に定める能力を持った看護専門職の育成を行った。 4年生では、「地域包括ケア実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「チーム医療論」の講義を、3年生では「災害看護学Ⅱ」の講義を開講した。 また、2年生については、保健師選択制のための「公衆衛生看護学」の履修者選定を実施した。1年生は、災害看護学(後期実施中)の講義を開講した。 令和5年度に実施する評価、見直し等について、準備を行った。(看護学部)</p> <p>令和3年度全科目の最終成績によるGPAの評価を行い、5月に2年生を対象に結果を配付した。また、令和4年度前期科目の本試験結果によるGPAの評価を行い、12月に1・2年生を対象に中間発表を行った。(保健科学部)</p> <p>多分野にわたる最先端の研究手法や知識を幅広く習得させるため、博士・修士課程とも必修科目として「臓器移植勉強会」、「がんゲノム解析からがんシステムズバイオロジーへ」などの大学院セミナーを開講した。 また、令和2年度開設の「大学院eセミナー」は受講者の利便性向上に寄与した。(医学研究科)</p> <p>実践開発看護学の基礎を培う「専門科目」(4科目)、研究テーマに関連する見識を深める「選択科目」(3科目)、研究者として自立して研究できる能力を修得し学位論文を作成する「特別研究科目」(1科目)の3つの科目群による教育を行った。(看護学研究科)</p>									
	(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	II	<p>(看護学部)看護部と看護学部教員による、臨床教授等のより効果的な活用の検討や教育について情報共有する場を設けるなど、教育の充実に取り組んだことは評価できる。</p>
		<p>新たな基準により称号付与を行った臨床教授等をより効果的に活用できるように、看護学部教員、附属病院及び会津医療センター看護部で検討を行い、とりまとめた「臨床教授等の役割」に基づく実習指導を展開した。 また、附属病院看護部指導者と看護学部教員が、教育について共有する場を設け、教育の充実を図った。</p>									

2	研究に関する目標を達成するための措置	A	1	B	10	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	7	C	0	D	0	II	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に、外部資金の獲得に繋がる実用化を目指した研究への支援を決定したことは評価できる。 ・研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員の雇用や民間会社への英文校正委託など質の高い支援環境を提供していることは評価できる。
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	0	D	0	II	臨床研究センターの部門を教育・相談、実施支援など3部門に再編し、臨床研究の計画段階から実施支援までを効率的にサポートできるようスタッフを配置し、質の高い臨床研究等実施体制の強化を図ったことは評価できる。
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	6	B	15	C	0	D	0	I	
		おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
(1)	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	4	B	9	C	0	D	0	I	<p>県民の健康増進を目的とした参加型公開講座や地元紙との共催による健康セミナーを開催するなど、健康づくりに関する正しい知識の普及に貢献したことは評価できる。また、県と連携し、「学生がん予防サポーター養成事業」で出前講座を行うほか、オンデマンド配信による受講者増に取り組むなど、保健・医療教育活動に寄与したことは評価できる。</p> <p>福島県保健福祉部健康づくり推進課との連携事業である学生がん予防サポーター養成事業を福島学院大学で10月3日に乳がんをテーマに、郡山女子大学では12月21日に大腸がんをテーマに出前講義を対面にて実施した。</p>
(2)	地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	A	2	B	6	C	0	D	0	II	医療機関からの医師派遣依頼に対し、対応件数、対応率ともに目標を達成したことは評価できる。
		医療機関からの医師派遣依頼について、非常勤医師派遣依頼1,583件を公正に処理した。このうち対応可は1,379件であり、その対応率は87%であった。									

4	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	1	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画通り実施し、ほぼ期待どおり成果を挙げた。									
	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	1	II	オンラインによる「国際学生カンファレンス」に参加し、日ごろの研究成果を英語で発表及びメキシコなどの海外5大学の学生と交流を深めたことは評価できる。
		7月に3日間の日程でオンラインによる「国際学生カンファレンス」に会津大学とともに参加した。本学からは医学部生8名と看護学部生11名の合計19名が参加し、日ごろの研究成果を英語で発表及びメキシコなどの海外5大学の学生と交流を深めた。									
5	大学附属病院に関する目標を達成するための措置	A	14	B	44	C	2	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画通り実施し、ほぼ期待どおり成果を挙げた。									
(1)	附属病院に関する目標を達成するための措置	A	5	B	39	C	0	D	0	II	認定看護師など、特定の看護分野に秀でた専門性の高い人材の育成が着実に進められていることは評価できる。また、管理者として優秀な人材となる認定看護管理者の育成への取組も評価できる。
		<p>令和3年度に認定看護師教育課程を受講し修了した緩和ケア分野とクリティカルケア分野の各1名が認定看護師の資格認定審査に合格し資格を取得した。さらに、令和3年度に認定看護管理者教育課程サードレベルを受講した1名が認定看護管理者の資格を取得した。また、令和4年度認定看護師教育課程の受講者は、認知症看護分野、がん薬物療法看護分野、皮膚・排泄ケア分野各1名で、3月に全課程を修了した。</p> <p>医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士、研修医等が参加する医療安全ラウンドは原則毎週として木曜日に開催(4月から3月で計70回)し、全ての部署を2回ずつラウンドできた。「危険な薬剤の誤投与防止」「医療機器の安全な操作確認」など病院における医薬品や医療機器の適切な管理状況を確認することができた。ラウンド後の結果は書面でフィードバックした。後半は、病院機能評価での指摘事項を中心に遵守状況の確認を行っている。次年度は、ラウンド結果を踏まえて自部署の課題解決の計画を提出頂き、対策の遵守状況を確認するなどPDCAサイクルが回るようにさらに支援をおこなっていく。</p> <p>また理学療法士・薬剤師・看護師による転倒転落ラウンドを月2回(4月から3月で計27回)開催した。インシデント事例の要因や対策、入院環境のリスクの確認をおこない、医療安全ラウンドと同様にフィードバックをした。</p>									
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	A	9	B	5	C	2	D	0	II	合同説明会への参加や個別説明会の開催、民間ウェブサイトの活用など、積極的に研修プログラムの周知を図り、令和5年度採用初期研修医のマッチング率が100%となったことは評価できる。
		<p>積極的な合同説明会への参加や個別説明会の開催、民間ウェブサイトや当院ホームページ等を活用し、当院研修環境のPRに努めた結果、3月末時点で下記のとおりとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期研修医:マッチング率100%(定員5名充足) ・内科専門研修プログラム:応募なし ・鍼灸研修生:前・後期各1名採用内定 									

第2	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	2	B	22	C	2	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画通り実施し、ほぼ期待どおり成果を挙げた。									
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	8	C	1	D	0	II	専門委員会や次期システムの検討会において会津大学教員等の専門家から助言を受け、データ管理システムの円滑な運用を図った。また、県民健康調査で蓄積したデータを学術研究に有効活用していることは評価できる。
		専門委員会、次期システムの検討会及びプロポーザル審査会において、情報管理等の専門家から助言を受け、データ管理システムの円滑な運用を図っている。なお、次期システム検討のため、新たに2名の専門家から助言を受けることとした。また、プロポーザル審査会において次期システムの契約候補者を選定した。さらに、県民健康調査で蓄積したデータをデータベース上で管理し、学術研究に活用している。									
2	復興支援に関する目標を達成するための措置	A	2	B	3	C	0	D	0	I	<ul style="list-style-type: none"> 「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」において開発した技術を用いて取得した、新型コロナウイルスに対する抗体が試薬として製品化されるなど新たな医薬品関連産業の創出への取組は評価できる。 TRセンター発ベンチャー企業等の雇用者総数が、着実に伸びていることは評価できる。
		<p>福島医薬品関連産業支援拠点化事業において開発したタンパク質マイクロレイの技術を用いて取得した新型コロナウイルスに対するIgA抗体について、試薬メーカーから抗体試薬として販売開始された(3例目の製品化)。並行して、同抗体を使用した点鼻薬(点鼻予防薬)等の開発を進めている。また、TRセンター浜通りサテライト(南相馬市)は常駐研究員の体制を6月から4名に強化し、1月からはTR発ベンチャー企業である福島セルファクトリー(株)が入居した。さらに、第2回浜通りバイオ産業推進フォーラムを12/15に開催し、前年を上回る55名が参加した。</p> <p>受託・共同研究及びベンチャー企業等への研究室・機器貸付による契約総額は3億9百86万円(令和4年3月末:年度計画の105%)、1月にTR発第4号ベンチャーとなる(株)ジェイサーバイオが設立されるなど、TRセンター発ベンチャー企業等の雇用者総数は70名(令和5年4月1日現在:年度計画の130%)と、着実に実績を上げている。</p>									
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	1	D	0	II	アスタチンを用いたがん治療候補薬について医師主導治験を開始したこと、ガリウムを用いたがん診断薬について臨床試験開始に向けた準備が進んでいることなど、先端研究の発展に寄与したことは評価できる。
		<p>先端臨床研究センターにおいて、中型サイクロトロンを活用した新たな放射性薬剤の研究開発を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> アスタチンを用いたがん治療候補薬(211At-MABG)については、6月に医師主導治験を開始した(この治験は世界初の取組となる)。 ガリウムを用いたがん診断薬(68Ga-PSMA-11)については、6月6日にPMDAとのRS戦略相談事前面談を実施、9月1日にPMDAからRS戦略相談対面助言を受け、臨床試験に向けた準備を進めている。 									
4	関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等、国内外の研究機関と連携関係を継続しているほか、放射性薬剤研究等において国内外の関係機関や研究者と連携を図りながら、研究開発を進めていることは評価できる。
		IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等国内外の研究機関と連携関係を継続しているほか、福島国際研究教育機構基本構想の実現に向け、「放射性治療薬開発に関する国際シンポジウム」を開催し、国内外の関係機関や研究者とのさらなる連携・協力関係の構築に努めた。									

第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		A	3	B	36	C	0	D	0	II	
			おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		A	0	B	12	C	0	D	0	II	
			おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置		A	0	B	10	C	0	D	0	II	男女共同参画を始め、ダイバーシティなどに関するセミナー等を開催したほか、産休等を取得する女性医師の代替確保など、積極的なワーク・ライフ・バランスの推進や女性が働きやすい環境の整備に取り組んだことは評価できる。
			<p>男女共同参画のみならずダイバーシティやワーク・ライフ・バランスに関するセミナー等を開催したほか、ライフイベント中の研究者への研究支援員の配置、産休等を取得する女性医師の代替確保、育休任期付職員の配置などにより、女性が働きやすい環境を整備している。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <p>男女共同参画等に関するセミナー:12回 研究支援員の配置:延べ46名 産休等医師の代替確保:1名 育休任期付職員の採用:7名</p>									
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置		A	0	B	2	C	0	D	0	II	外部との委託契約における個人情報の取扱い手続きを明確化し、漏えい事故防止の未然防止対策を図ったこと、定型業務や会議の開催方法の見直しを行い、業務の効率化を推進したことは評価できる。
			<p>個人情報漏えい等事故の一層の未然防止を図るため、契約書に添付している「個人情報取扱特記事項」の見直しを行い、委託先での個人情報取扱事務の流れを把握するとともに、必要な承認申請の指示や委託先での作業環境等の確認を行うこととした。</p> <p>また、対面開催でなくても可能な会議等についてはメール審議を実施し、効率化を図った。</p>									

2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	競争的資金に関する公募情報の速やかな学内周知や科研費等申請書の事務局による事前チェックを実施し、外部研究資金等の自己収入増加に努めたことは評価できる。
		競争的資金の公募情報を速やかに学内の電子掲示板に掲載し周知した。科研費等の競争的資金の申請書について、希望者分を事務局において事前チェックを実施した。									
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	全職員の意識啓発を図るため、省エネルギーキャンペーンなどを行い、法人全体で経費節減に向けた取組を行ったことは評価できる。
		光熱水費の使用状況について、データの整理・分析を行い、予算要求に反映させると共に、省エネ通信の発行や省エネルギーキャンペーンを実施し、全職員に対して意識啓発を行った。									
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	2	B	6	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	令和3年度業務実績評価結果を法人内で共有し、検討課題への対応と令和4年度計画の適切な進行管理を促したことは評価できる。
		福島県公立大学法人評価委員会による令和3年度業務実績報告書に係る評価結果について、役員会に報告するとともに、各所属に通知し、検討課題への対応と令和4年度計画の適切な進行管理を促した。									
(2)	情報発信の推進に関する目標を達成するための措置	A	2	B	2	C	0	D	0	I	県内の高校生を対象とした広報紙の定期的な発行や出前講義などを実施し、将来、県内で活躍できる人材育成に寄与する取組を行ったことは大いに評価できる。
		プレスリリース配信から紙面掲載に繋がるようメディアとの連携を強化し、積極的な情報発信を進めている。それにより令和4年度は、取材対応件数438件、投げ込み件数は72件と高い水準を維持している。 学内向け広報紙「FMUNewsLetter」をリニューアルし、月1回の発行を継続している。 アニュアルレポート(年次報告書)については、継続的な情報発信にふさわしい恒久的なデザインとフォーマット化による見やすさ等を追求するため発行を11月に発行、配布を行った。 県内の全高校生を対象に発行している「いごころ」は今年度も予定どおり4回発行。									

4	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置		A	1	B	15	C	0	D	0	II	
			おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。									
	(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	A	1	B	2	C	0	D	0	II	「倫理講習会」をハイブリット方式（集合＋e-learning）で実施し、受講者の利便性の向上を図った結果、受講率が前年度を上回ったことなど、コンプライアンスの推進に取り組んだことは評価できる。
			4月4日開催の新採用職員研修において、コンプライアンスに関する研修を実施し、法令遵守意識の浸透を図った。 5月10日付文書照会により各所属における取組状況を把握したほか、各所属へコンプライアンスマニュアルを送付しコンプライアンスを推進している。 12月にコンプライアンスだよりを発行し、年末年始を迎えるに当たって飲酒運転防止等の注意喚起を行った。									
(2)	施設整備や情報通信基盤の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	学生へのアンケート結果に基づき、福島駅前キャンパスに自動販売機の増設や学生用掲示板を設置し、ニーズに応える環境の改善に取り組んだことは評価できる。	
		施設等の長寿命化改修計画を7月6日に策定した。										
(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	定期健康診断の未受診者に対し、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とするなど、受診勧奨を積極的に行い、受診率100%を達成したことは評価できる。	
		定期健康診断を6月末から7月初めにかけて実施し、受診率100%となるよう、未受診者に積極的な受診勧奨を行い、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とすることで、受診率100%を達成した。 専任の精神科医師、臨床心理士、看護師等が連携しながらメンタルヘルス相談体制の充実を図った。 作業環境測定の上半期分を9月に実施し、下半期分を2月に実施した。 産業医による職場巡視を毎月1回実施した。 メンタルヘルスに関する研修会を新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため配信により実施した。 大学健康管理センターだよりを随時発行し、分かりやすい情報発信を行った。 新型コロナウイルス感染の急拡大時期には、感染対策の徹底や無料検査・陽性者登録センターについて案内したリーフレットによる注意喚起を実施した。										